

クルーズ客船寄港に向けた港湾施設の整備について

北信越部会提出
説明担当 新潟市

国が掲げる「観光ビジョン実現プログラム 2017」において、増大するアジアでのクルーズ需要を世界的な市場に成長させ、東京オリンピックが開催される2020年には訪日クルーズ旅客500万人という目標が示されるなど、外航クルーズ客船の寄港促進による、訪日外国人増加・インバウンドの拡大での経済活性化を強く打ち出しています。

近年、外航クルーズ客船は大型化が進んでおり、日本に寄港するクルーズ客船は最大で20万トンを超え、一度の寄港で4千人を超える乗客が観光するような場面も多く生じています。また、同時に、小型のクルーズ客船で寄港し、多彩な寄港地観光を楽しむなど、ニーズの多様化も進んでおり、地方港への寄港が、地域経済に大きな効果と、地方創生に役割を果たすことへの期待も高まっています。

本県でもクルーズ客船の寄港取組みは新潟市や佐渡市を中心に取組んでおり、下越や佐渡、上越地域での広域観光推進への起爆剤として期待が高まっています。

しかし新潟県内においては大型クルーズ客船が寄港できる施設が不十分なことなどから、クルーズ客船の寄港は平成26年度が9回、平成27年度が11回、平成28年度が15回にしかならず、遅れをとっています。

クルーズ客船寄港は、広域観光の推進、新潟県内のにぎわい創出や地域経済活性化に直結するものであり、クルーズ振興を通じた地方創生に資する取り組みとして、増大する訪日外国人によるクルーズ客船寄港を可能とする環境の整備は急務となっています。

以上から、新潟港（西港区・東港区）、直江津港、佐渡（両津港・小木港）、柏崎港を中心に、クルーズ客船の受け入れ態勢の拡充を図るため、岸壁や旅客ターミナル等の必要な港湾施設整備に対する支援を要望します。